

会 議 名	和幸セントラルハウス 運営懇談会	管理者		記録者	木村
開催年月日	令和3年4月15日(水)				
場 所	和幸セントラルハウス 交流ホール	時 間	14:00~14:45		
会議出席者名	今村理事長、泉経理部長、明円業務執行理事、熊谷業務執行理事、 神田副施設長、坂本管理者、前多氏（中央地区民生委員）、佐藤氏（中央包括）、 肴倉氏（オンブズマン）、佐藤氏（山の手町会長）、入居者A氏、 入居者ご家族B氏、木村相談員				計 13 名
<p>1. 理事長 挨拶</p> <p>4/1 から和幸園の人事異動も含めて、シャッフルしております。和幸園の職員数は約 320~330 名おり、常に人数が動いている状況で進んでまいっております。その為、数年に 1 度は大きなシャッフルを行い、組織としてだらけてしまわないよう行っております。皆様にはご不便をおかけする事がないように、努力してまいりますので、何かありましたら遠慮なくお声がけして頂ければと思います。さて、ここ 2 年コロナウイルスで悩まされております。青森も大きなクラスターが続いておりますし、俗に言う『まん防指定都市』に比べるとまだまだ安定している所ではございますが、ワクチンがいよいよ始まって終わるまで半年くらいかかると思います。その対応にも追われて参る事になりますので、是非皆様と連動して行って行きたいと考えております。そして、セントラルハウスにお入り頂いている皆様におかれましては、もちろん外部と交流はなかなかしにくいですが、法人の中で出来る事はやっていきたいと思いますので、去年マエダアリーナでの運動会や色々な事もさせていただいております。これからもこういう法人だからこそ、出来る事をやりながら進んでまいりたいと思います。本来であれば 4 月から町会長さんや民生委員にもどんどん入っていただきたいと思っていますし、セントラルと長島の保育園を中心に出来る事を感染予防に十分気を遣いながら一緒にやらせていただき、和幸園が傍にあって良かったと言われていくような事を考えさせていただきたいので宜しくお願いします。また、オンブズマンさんにも色々な所でこんな事があった等感想を含めてお寄せいただければ、ホームページや SNS 等を通して発信していきたいと思っておりますので、よろしく願い申し上げます。</p> <p>2. 出席者紹介 ※上記参照</p> <p>3. 入居状況 (令和3年4月1日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入居者 48 名 (男性 14 名 女性 34 名) 平均年齢 86.9 歳 (最高齢者: 95 歳 最低年齢者: 66 歳) ・介護度内訳 自立・・・2 名 要支援 1・・・3 名 要支援 2・・・2 名 要介護 1・・・20 名 要介護 2・・・10 名 要介護 3・・・6 名 要介護 4・・・4 名 要介護 5・・・0 名 					

<管理者より>

和幸園の活動をお知らせします。『青森子ども宅食おすそわけ便』という青森県社会福祉協議会が主催しており、目的としては社会的に孤立しがちな子育て世代に周囲に知らせないような形で定期的に食品等を届ける活動であり、支援に繋がりにくい家庭とひたすら繋がり続ける内容となっています。今年の3/21(日)に開催され、和幸園では今年初めて参加し、3か所の拠点で支援のお手伝いをさせていただきました。3か所は新町にある和幸保育園、浅虫にある軽費老人ホーム、中央にある和幸セントラルハウスにて実施しました。また、新町の保育園で青森市長も参加し開会セレモニーを行った後に、子ども宅食を開始しています。和幸園では支援する物品を袋詰めし、ドライブスルー方式でお渡ししました。

4. 行事について

<相談員より>

前年度後期に行った行事について報告させていただきます。コロナの関係もあり、今まで通りの行事の開催とは行かず、マスク着用など配慮しながら実施しています。はじめに、11月にまぐろ解体ショーを行いました。これは和幸園の各拠点から集まった行事推進委員会で企画した行事で、セントラルが1回目の実施でした。矢田の特養の調理員さんが解体を行って下さり、マグロの解体を初めて見る入居者が多く、とても興奮しながら鑑賞されていました。柵どりのマグロは昼食で提供し、脂がのってとても美味しかったようで、「ぜひまたやって欲しい」と皆さん話されておりました。1月に行った新春会は、職員の余興盛沢山の内容で行いました。和幸園では多彩な趣味・特技を持っている職員が多く、三味線やサックス、ピアノ演奏、歌唱と様々な余興を披露し、「無料でこんなに見れるなんてすごい」「とても感動しました」と感想が聞かれました。また、別の日にはミニ新春会という事で、入居者様から希望があったあん玉やいもくじ、甘酒の提供、おみくじを実施。1階・2階の入居者で誘導時間を分け、会場が密にならないように注意して行い、当たりが出ると皆さんとても喜ばれ、賑やかな雰囲気で行う事が出来ました。2月には節分会を行い、平日でデイサービスへ行かれている方も多く、一部の方に参加していただきました。今年は124年ぶりに節分が2/2であり貴重な年であった為、どうして今年の節分が2/2なのか、恵方巻について等もお話させていただきました。この日は偶然参加した入居者さんが誕生日だった為、一緒に誕生日の歌を歌ってお祝いをさせていただき、とても喜ばれておりました。会場へ突然鬼が登場すると、みなさん大きな声で「鬼は外、福は内」と勢いよく豆を撒き、「これで少しでもコロナ落ち着けばいいね」と皆さん話されていたのが印象に残っています。最後に2月から開始となった音楽クラブについてです。矢田の音楽療法士が月に1回音楽療法を行って下さっています。コロナの関係もあるので、現在は15人までと制限し、マスク着用し行っております。内容としては、手足の体操、正しい腹式呼吸の仕方、季節の歌をみなさんで歌ったり、簡単な楽器の演奏を行っています。デイサービスの関係もあるので、毎月実施する曜日を固定にせず、みなさんに参加して頂けるよう考えていま

す。今後も、工夫をしながら入居者さんに少しでも楽しんでいただけるよう、行事を計画・実施していきたいと考えております。

5. 入居者様より

< A氏より >

ここでの生活に大変満足しています。いつもお気遣いいただき、本当にありがとうございます。

< ご家族より >

今回皆様とお話出来る機会を設けて頂き、ありがとうございます。姉は神奈川県の川崎に住んでいた時のケアマネが青森に帰る事に親身に協力いただき、セントラルハウスに入居したい旨のお話をさせていただいた時もタイミングが良く、施設の方々のご配慮でスムーズに入居出来た事に感謝しています。本当にありがとうございます。

6. 出席者様より

< 泉経理部長 >

セントラル開設して丸4年経とうとしており、入居者さんもだんだん増えてきていますが、全体的な経営状況の見通しが立たない、このままでは入居者さん含め共倒れになってしまうと判断し、ちょうど2年前にお家賃の方を1万円、介護保険外の独自のサービスの方も料金改定させていただきたいとお願いし、皆様に了承していただき現在に至っています。当時は年間2千~3千万の赤字が続く不安を抱えておりましたが、その後2年経過し概ねどうにか継続していける所まで来る事が出来ました。皆様のご協力とご理解があつての事だと思っておりますので、感謝申し上げます。今後も何かの形でお願いをする事があるかもしれませんが、経営の状況が良くなっていけば入居者さん、働く職員へもかえるものと思っております。そういった視点を持ちながら、より良い環境にしていければと考えていますので、宜しくお願い致します。

< 明円業務執行理事 >

管理者の坂本は包括支援センター長も行ってきたベテランの方です。セントラルハウスも4年経とうとしており、入居者様に楽しい毎日を送っていただくように職員一同頑張っています。併設しているヘルパーステーションもありますので、サービス提供しながら事故の内容に私も関わっていきますので、よろしく申し上げます。

< 熊谷業務執行理事 >

ヘルパー事業所が併設になっていますので、ヘルパーとして援助に入る日もあれば、セントラル職員としてお食事提供等で関わる時もあり、馴染みの職員が毎日皆さんのお世話をする事で安心して頂けるのではないかと考えております。ただ、色々な場面ですっとこれで良いという事は決してないと思っておりますので、皆様からご意見いただきながらどんどん変えていければと思いますので、よろしく申し上げます。

<神田副施設長>

私は青森にきて2週間が過ぎた所でございます。まずは青森の土地の事をいっぱい知っていかなければいけないので、和幸園というグループの事も勉強中です。幸いな事に私が3月まで勤めていた前任の法人も色々な事業を行っており、そこでサービス付き高齢者向け住宅も運営もしておりました。規模としては、全34室でしたのでセントラルより部屋数は少ないですが、泉部長も話していた資金や運営にかかわる苦労を私も経験してきました。ただ、そのような経験がセントラルで活かせる所があれば是非とも協力していきたいと思っていますので、何かお気づきの事がございましたら、遠慮なくおっしゃっていただければと思います。

<中央包括・佐藤氏>

和幸セントラルハウスの方で何名か担当させていただいている利用者があり、その中で施設職員、ヘルパーの方が連携して下さり、ご本人の状態や私の目の行き届かない部分の把握をしていただき、非常に感謝しております。これからもよろしくお願い致します。包括としましては、和幸セントラルハウスは中央包括管轄にある施設であり、比較的自立している方が今後も生活を継続していく際に、生活してきた範囲の中にある施設に入居していただく事で、自宅で生活していた時と変わらず外出したり、交流を継続する事が出来ます。今後も担当している利用者で施設を検討している方がいれば、和幸セントラルハウスを選択肢の一つとしてご紹介させていただくこともあると思うので、その際はよろしくお願い致します。

<民生委員・前多氏>

前回もお話させていただきましたが、このコロナ禍で施設に入らずに在宅に単身でいる方は人と話す機会がなく、何となく弱っているような印象を受けています。行事も中止になるものが多く、会う機会が減ってきているので、施設に入っている方がかえって良いのかなと思ってしまう所も正直あります。施設の中で誰かとお話出来るというのは、とても幸せな事だと感じました。子ども宅食についてはチラシなどの情報が今回は私の所には流れてきていなかったもので、次回は教えていただければ助かります。また、こちらではコロナのワクチンはどのような対応になるのでしょうか？

坂本管理者より：

高齢者施設は嘱託医が対応ですが、セントラルは在宅の取り扱いの為、インフルエンザの予防接種と同じくコロナワクチンの接種券が届いたら、対応の医療機関へご自身で連絡して予約し接種する形になります。また、病院へ行くのにもご本人、ご家族と一緒に、ヘルパー対応とそれぞれです。年齢によって接種券が届く日程も異なるため、問い合わせがあれば青森市保健所から届いた接種スケジュールをお渡しし、ご自分で出来ない方、不安な方にはこちらの方でいつでも相談にのれるよう対応しております。高齢者が沢山いる場所ですので、ワクチン接種も強制ではなく、受ける方・受けない方がおりますが、受ける方には副作用等もありますので様子観察を行う為にも接種日をお知らせして頂くようお願いしようと思っております。

<山の手町会会長・佐藤氏>

山の手町会は約340世帯ありますが、毎年地域年齢は上昇しております。防災訓練を行うと、中学生の力がとてもすごくエネルギーを感じます。もっと若い人達にも町内行事に興味を持っ

ていただければと思っております。町内の活動としては、市から補助を受けながら中央西公園に花植えを行っています。また、今年は中央西公園のトイレ横に防災用品用のプレハブを建てる案も出ています。あとは、去年ですが保健大の生徒と一緒に町内の状況調査を一緒に行いました。いつも住んでいる所だと何でもそれが当たり前と感じてしまいましたが、若い方の違う見方から気づく事も沢山ありました。今後も色々とお世話になる事があると思いますが、よろしくをお願いします。

<オンブズマン・肴倉氏>

4月でセントラルへの訪問は最後になりますが、ここに定期的に来て色々なお話をすることが出来て、それぞれの視点から話されることを参考にして、気になる所をピックアップして報告しております。様々な人の色々な考えがあり、年齢や生い立ちにおいても違うんだと感じています。希望が多かったのはお食事についてで、量や味付けなど話される方が多かったです。5月から今度新しいメンバーがまた感じた事を報告していくと思いますので、今後ともよろしくお願い致します。

8. その他

<管理者より>

色々なご意見をいただき、ありがとうございました。民生委員さん、町会長さんからとても元気なご意見をいただき、地域の施設としてはとても頼もしく思っております。本日はお忙しい中、お集りいただきまして、ありがとうございました。